

未来をつくる実践目標

チャレンジ2024

【ver.2】

(令和6年度 主要政策)



令和6年11月

福井県

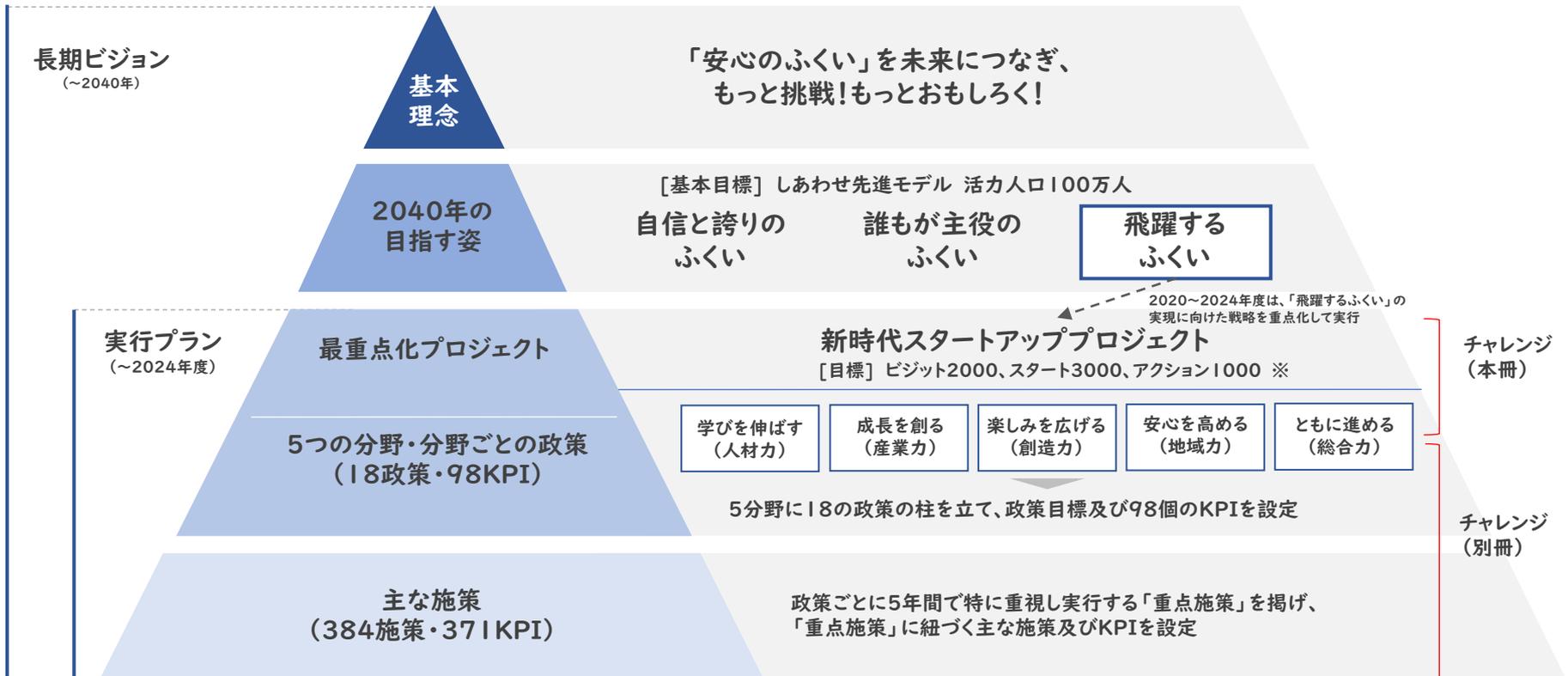
はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。また、長期ビジョンでは、北陸新幹線福井・敦賀開業を迎えるこの5年間に重点化して実行する政策を「新時代スタートアッププロジェクト」と位置付けており、その主なプロジェクトを冒頭にまとめています。今回、令和6年度の主要政策の実践目標「チャレンジ2024」について、9月末までの主な成果を「ver.2」としてとりまとめました。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、「チームふくい」で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

(参考) 実行プランの体系図



※「ビジット2000」…観光客入込数2,000万人(2024年)、「スタート3000」…創業・事業承継等の件数3,000件(2020~2024年度計)、「アクション1000」…県民の主体的な活動応援1,000件(2020~2024年度計)

目次

9月までの主な成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

新時代スタートアップ主要プロジェクト

(1) ふくいエンタメ計画・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
～ふくいの魅力をとがらせよう～

(2) 次世代チャレンジ宣言・・・・・・・・・・・・・・ 13
～チャレンジで未来をつくろう～

(3) しあわせアクション運動・・・・・・・・・・・・ 18
～一人ひとりがプレイヤーになろう～

令和6年度 分野別の主要政策（別冊）

I 学びを伸ばす（人材力）

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成・・ 4

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり・・・・・・ 10

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現・・ 14

政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援・・・・・・ 20

II 成長を創る（産業力）

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ・・・・ 25

政策6 地域経済のイノベーション・・・・・・・・・・・・・・ 33

政策7 Society 5.0時代の新産業創出・・・・・・・・・・ 38

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ・・・・・・・・・・ 42

III 楽しみを広げる（創造力）

政策9 100年に一度のまちづくり・・・・・・・・・・・・ 44

政策10 北陸新幹線開業効果を最大化・・・・・・・・・・・・ 51

政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略・・・・・・・・・・ 57

政策12 文化・スポーツがふくいの活力・・・・・・・・・・・・ 60

IV 安心を高める（地域力）

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル・・・・・・ 63

政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉・・・・ 66

政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持・・・・・・・・・・・・ 70

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現・・・・・・・・・・・・ 75

V ともに進める（総合力）

政策17 「チームふくい」の行政運営・・・・・・・・・・・・ 81

政策18 広域パートナーシップの強化・・・・・・・・・・・・ 85

※項目については、長期ビジョンの体系で整理しています。

9月までの主な成果

新幹線効果の最大化・持続化

新幹線開業効果の波及

開業以降、本県のメディア露出が大幅に増えたことや、福井と直結したことにより、特に関西圏や信越地域からの来訪者が大きく増加しており、主要観光地の入込みも順調に推移しています。
新幹線開業の盛り上がりを波及させるため、売上等が減少している商店街の成長計画の策定や消費喚起事業を支援する補正予算を計上しました。



恐竜博物館

誘客プロモーションの強化

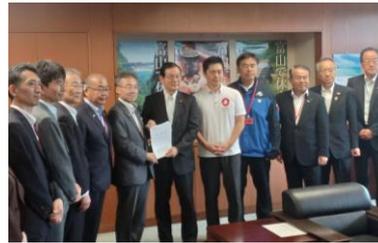
北陸新幹線の福井・敦賀開業、その先の大阪延伸や、2025年の大阪・関西万博の開催も見据え、北陸三県連携による関西圏での情報発信拠点を7月末にオープンしました。
10月からは北陸三県を舞台にJRグループ等による「北陸デスティネーションキャンペーン」が始まり、新たな観光列車「はなあかり」の運行など、さらなる誘客を促進します。



情報発信拠点『HOKURIKU+』

小浜京都ルート整備に向けた進展

6月の与党整備委員会において、令和7年度末までの着工を目指す方針が示され、8月には国土交通省等から詳細な駅位置・ルート案等が示されました。また、概算要求では、着工予算が事項要求されました。
引き続き、関西・北陸など沿線の関係者とともに、年末の政府予算案において、着工予算を計上するよう、政府・与党に強く求めます。



合同中央要請

インバウンド観光の推進

外国人観光客の拡大に向けて、本県への来訪者が多い中国と香港、タイにおいて新たに営業代行を設置し、現地旅行会社等への営業活動を強化しました。
また、旅の目的となる体験コンテンツづくりや、民間事業者のキャッシュレス決済や免税店の導入経費の全額支援など、快適な旅行のための受入れ環境の整備も進めています。



インバウンド向け体験コンテンツ

公共交通の利用促進

北陸新幹線福井・敦賀開業を機に、ICカード利用者を対象に路線バス半額キャンペーンを実施し、14万人超の方に利用いただきました。
10月からは路線バスデジタルスタンプリーの実施や、3連休でのバス無料デーの開催など、引き続き公共交通の利用を促進し、県民や観光客の利便性向上を図ります。



路線バス半額キャンペーン

県都のまちづくり

福井駅前電車通り北地区において、A街区のフクマチブロックが8月にグランドオープンしました。また、福井駅前南通り地区では、事業計画の変更認可を行い、2027年春のホテルの開業から順次、マンション、駐車場、商業・業務施設の開業を目指しています。引き続き県都のにぎわいづくりに向け、ファンドを活用した商店街のリノベーションなどを進めます。



フクマチブロック

誰もが輝けるダイバーシティ社会へ

女性活躍サミット初開催

7月に北陸初の三県合同による「かがやきHokuriku女性活躍サミット」を開催し、自見地方創生担当大臣と北陸三県知事の連名により、誰もがイキキと活躍できる社会の変革に向けた共同宣言を採択しました。「ふくい女性活躍推進企業」は昨年度末から半年で1.5倍（227社増）と大幅に増加しています。



女性活躍サミット共同宣言

障がいのある方の社会参加の拡大

4月から事業者による障がいのある方への合理的配慮の提供が義務化され、民間施設のバリアフリー化に対する支援を行っています。また、農福連携ビジネスプランコンテストの実施や、障がい者アートの展示会開催、eスポーツを通じた交流促進など、障がいを持つ方の職域拡大や自己実現に取り組んでいます。



eスポーツ体験交流会の様子

外国人が住み、働きやすい環境づくり

言語の違いによる情報不足や慣習の違いなど、外国人住民の方には特別な対応が必要となることから、県内の災害発生時の外国人支援体制や北陸三県の広域的な相互支援体制の強化に向けて、三県合同による災害時の外国人支援にかかる研修会を7月に開催しました。



北陸三県合同の研修会

結婚・子育ての希望が叶う社会へ

出会いの機会の創出

6月から女性を対象とした「ふく恋」利用登録料無料キャンペーンと、ふくい結婚応援企業の従業員を対象にした法人割引を開始し、出会いの機会を拡大しました。開始から3か月でお見合いが前年同期比109件増の349件となっており、引き続き結婚の希望を叶える支援に市町とともに取り組みます。



ふくい結婚応援ポータル

子育てをもっと楽しく

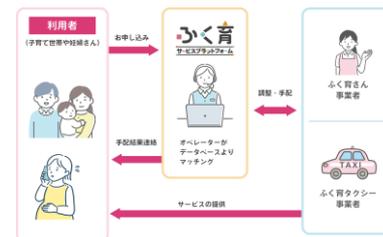
市町が整備する全天候型の遊び場を支援しており、県内では小浜市がトップを切って5月に木造平屋のキッズプレイパーク「なないろ」をオープンしました。ほかにも県内9市町で設計・施工準備が進んでおり、雨の日も雪の日も親子で楽しめる環境づくりに引き続き取り組みます。



キッズプレイパーク「なないろ」（小浜市）

子育てをもっと安心に

家事・育児をサポートする「ふく育さん」や、子育て世帯の外出をサポートする「ふく育タクシー」をより利用しやすくするため、両サービスの利用申し込みを一元的に受け付けるオンライン窓口を7月にオープンしました。モニターキャンペーンも実施しており、利用者目線での課題把握と改善に努めます。



プラットフォームの仕組み

長期ビジョンの着実な推進

能登半島地震等を踏まえた防災強化

ドローンを活用した孤立集落の情報収集や、通信網等の寸断に備えた新たな衛星通信設備や水循環型手洗設備の導入など、震災の教訓を生かし、地域防災計画を見直しました。また、救命・救助活動や緊急物資輸送に不可欠な緊急輸送ルートの通行確保のため、道路啓開計画を策定しました。



水循環型手洗設備

地域の未来を創る人材育成

地域や経済界、自治体と連携しながら、地域の資源等を活かして地域の課題解決に取り組む人材を育成するため、県立大学「地域政策学部（仮称）」の令和8年春の開設に向けて準備を進めています。また、「地域の未来」と「自分の将来」を結び付けて考える「地域デザイン講座」を羽水高校を皮切りに県立高校で開催しました。



地域デザイン講座

環境アプリ「ふくeco」リリース

県民のみなさんに「気軽に・楽しく」身近な省エネやごみの減量に取り組んでもらうため、環境アプリ「ふくeco」を開発しました。脱炭素につながる「エコアクション」に対してポイントが付与され、貯めたポイントで欲しい景品に応募することができる仕組みになっています。2030年度の温室効果ガス排出量49%削減（2013年度比）に向けて、気軽に楽しくできる取組みを強化していきます。



人手不足産業への対応

「働きたい時間」と「働いてほしい時間」をマッチングする「スポットワーク」という新たな雇用形態の活用に向けて、マッチングサービスを利用する事業者への支援を開始しました。また、ミャンマーで、日本語や介護技術のほか、県の文化や歴史、方言などを学ぶ「福井クラス」を受講した技能実習生13名が来県し、県内の介護施設で実習を始めました。



ミャンマー「福井クラス」第1期生

スマートエネルギーエリアの形成

嶺南Eコースト計画に基づき、点状にする電力需要をコントロールし、発電所のように機能させる仕組み「VPP（バーチャル・パワー・プラント）」のリソースを嶺南市町と連携して拡大しており、小浜市と高浜町の公共施設を活用して、今年度から開設された新たな電力市場「容量市場」に参画しました。



スマートタウン（イメージ）

稼げる農林水産業の創出

木材生産による収益の向上に向けて、ふくい型林業経営モデルの集約エリアを10地区設定し、主伐地の集約化と木材生産の効率化に必要な道の改修等を支援しています。また、台湾やインドネシアの現地法人と連携した商談会や展示会の出展などにより、県外・海外における県産材の販路拡大を進めています。



台湾における展示会の様子

新時代スタートアップ 主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は \\ とんがろう、ふくい //
新時代スタートアップ★プロジェクト



ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどの
とがった魅力でたくさんの方を
呼び込もう！
みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事を
みんなで増やそう！
みんながしあわせな、
新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、
持ち寄ろう！
みんなの「小さなアクション」を
積み重ねて、ふくいを変えよう！



(1) ふくいエンタメ計画 ~ふくいの魅力をとがらせよう~

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなでつくります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

■ 福井駅西口市街地再開発を支援

福井駅前電車通り北地区において、A 街区のフクマチブロックが8月にグランドオープンしました。

また、B 街区では建築工事に対する支援を実施しました。



フクマチブロック完成

■ 「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺の

にぎわい創出など官民連携による県都のまちづくりを推進

福井城坤櫓(ひつじさるやぐら)の復元に向けた実施設計や石垣補強設計を進めています。

また、足羽川のライトアップ整備や広場整備に向けた協議・設計を進めるとともに、にぎわい創出イベントの開催を福井市とともに支援しています。



福井城坤櫓 復元イメージ

■ 金ヶ崎地区や神楽通りの再整備をはじめ、港や鉄道、歴史、食などのコンテンツを活か

した官民連携による敦賀のまちづくりを推進

金ヶ崎地区の賑わい施設整備に向けた協議やエリア全体の基本計画のとりまとめを民間事業者や市とともに進めています。また、まちづくりの実行プランとなるアクションプログラムの策定に向けた協議を市や地元とともに進めています。



敦賀まちづくり協議会

■ 路線バスに導入された交通系 IC カードを活用した乗車無料デーの開催や連携イベントの実施等による公共交通の利用促進

北陸新幹線福井・敦賀開業を機に、IC カード利用者を対象に路線バス半額キャンペーンを実施し、14万人超の方に利用いただきました。

10月から路線バスデジタルスタンプラリーを実施するとともに、10月の3連休にバス無料デーを開催するなど、公共交通の利用促進を図ります。



半額キャンペーンの様子

■ 観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や魅力的な宿泊施設の整備などを推進し、誘客を拡大します。

■ リニューアルオープンした恐竜博物館の魅力を県内外に広くPR

「オダイバ恐竜博覧会 2024」、東京ドーム巨人・広島戦「恐竜王国福井デー」、「福井県×タカシマヤ 発掘恐竜王国展」など大手マスメディアや百貨店と連携したイベントを都市部で開催し、多くの来場者に恐竜王国福井の魅力を発信。リニューアル後1年間で118万人が来館しました。



オダイバ恐竜博覧会 2024

■ 東尋坊における観光拠点整備を支援

本県を代表する観光地としてスケールアップを図るべく、ビジターセンター整備や駐車場一元化、既存商店街の改修等に対し支援するとともに、マルシェの開催といったソフト事業への支援も行うことで、エリアに賑わいを創出しています。



東尋坊(完成イメージ)

■ 六呂師高原の魅力向上に向け、民間活力を導入した開発を促進

六呂師高原の自然を活用した環境負荷の少ない滞在型アクティビティの展開をコンセプトに、民間事業者が行うオートキャンプ場等の整備を支援しています。



六呂師高原キャンプ場(完成イメージ)

©奥越前パークコンソーシアム

■ 若狭湾サイクリングルートの走行環境・受入環境等を整備

安全にサイクリングを楽しむために、道路の路面表示や案内看板の整備を進めています。
また、自転車を楽しむ会を開催して地域の機運醸成を図るとともに、サイクリングが盛んな台湾を対象にSNSによる情報発信などを実施しました。



若狭湾サイクリングルート

■ 観光客の決済データ収集、オープンデータ化により**観光DX**を推進

県内90エリアで実施している観光客向けアンケートにより得られた回答をもとに、満足度や消費額、宿泊地などを分析できるツールを観光データ分析システム「FTAS(エフタス)」に公開しました。



■ 多様かつ魅力的な**宿泊施設**の整備を支援

伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやベッドと泊まれる宿、サイクリストに優しい宿等、多様で魅力的な宿泊施設整備を支援しています。これまで嶺北34軒、嶺南59軒のリニューアル等を支援しました。



伝統工芸ルームへの改修(例)

■ 福井を舞台とした**大河ドラマ**や**朝ドラ**を誘致

福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラの実現に向けて、関係市町等と連携し、NHKに要望活動を実施しました。また、機運醸成等を図るため、大河ドラマ「光る君へ」にあわせドラマ館の運営や出演者によるトークイベントを開催しました。



光る君へ 越前 大河ドラマ館

■ **日本一選ばれるお米「いちほまれ」**に向け販売店舗を拡大

9月21日からの新米販売を皮切りに、10月以降、新米発表会、コンビニや量販店等での販売強化、米穀専門店との産地連携などに取り組んでいきます。



いちほまれ新米発表会

■ 「**日本一のそばどころ**」ふくいを全国に発信

福井のそばをPRするため「香福の極み越前蕎麦」をキャッチコピーに昨年度から周知活動を行っています。11月に開催する「福井そば博2024」などで、県外客に向け発信します。

香福の極み



■ ブランド魚「若狭ぐじ」「越前がれい」「ふくい甘えび」「若狭まはた」「**いわがき**」等、四季を通して発信

北陸新幹線で、旬のふくい甘えびを首都圏へ7回輸送し、6月には新ブランド「ふくい岩がき」のお披露目を開催しました。9月からは芦原温泉駅や福井駅周辺でポップアップストアを開設するなど、四季を通して美味しいブランド魚を提供しています。



■ **美食福井が誇る食材**の一体的なプロモーションを強化

昨年作成した県産24品目の特徴や固有のストーリーを発信する動画等を活用し、10月に県内、11月に首都圏の飲食店でフェアを開催するなど、「美食福井」が誇る県産食材の魅力を発信していきます。



■ 都市圏のターゲット層に対して**“売り”**となる**必食の逸品**を発信

新名物「フクイシウマイ」として、県産食材を使用した新商品を開発し販売。県内外の方々に福井ならではの「フクイシウマイ」を味わっていただくため、10月には県内飲食店等でのキャンペーンを展開します。



新名物「フクイシウマイ」

■ 食ブランド向上につながる飲食店等の開設を支援し、**魅力的な食を楽しむ「場」**を拡大

ミシュランガイドの星付き有名店で修業したシェフがいる日本料理店など4件を採択。食ブランド向上につながる飲食店の開設を支援していきます。



開設を支援した飲食店の料理

■ 外国人向けに**観光コンテンツを磨き上げ**、海外旅行会社と県内事業者をマッチングする**窓口を設置**

福井を訪問する目的となるコンテンツを造成し、新幹線開業に伴うニーズと県内事業者をつなげる窓口を設けることで、インバウンドを誘客します。今年度、20コンテンツを磨き上げ中であり、今後、海外 OTA で販売します。また、7月からインバウンドデスクを配置し、インバウンドに関する相談に対応しています。



ベトナムの旅行会社と相談の様子

■ インバウンド対策**キャッシュレス決済・免税店**を整備

福井を訪れた外国人観光客が快適に旅行できるように、今年度は民間事業者のキャッシュレス決済と免税店の導入費用を全額補助し、店舗を一気に増やすことで受入環境の整備を進めています。



設置された免税カウンター

■ 敦賀以西への誘客促進のため「**青々吉日 TSURUGA WAKASA**」周遊キャンペーンを開催

首都圏を中心にプロモーションを展開するとともに、敦賀・若狭全域への周遊を促すため、観光スポット等(約100か所)を巡るデジタルスタンプラリーを実施しています。



青々吉日 首都圏フェア

○国体レガシーを活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

■ **スポーツコミッションコーディネーターの配置やボランティアに特化したボランティア登録制度の設立**など、スポーツイベント誘致・開催支援活動を強化

スポーツコミッションコーディネーターを新たに委嘱し、スポーツ団体や市町と連携し、さらなるスポーツ大会を誘致。また F.sports! 内のボランティア募集ページでボランティアの会員登録から参加まで1つのサイトで手続きが可能になりました。



スポーツボランティアの様子

■ トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUIRAYS)**」として徹底応援

「福井ブローウィンズ」はB3リーグ完全優勝、最短でB2昇格を果たしました。特に、プレーオフ第2戦目には、セーレンアリーナで過去最高となる3,965人の観客が集まるなど大きな盛り上がりを見せました。



福井ブローウィンズホーム戦

■ 民設民営の**アリーナ整備構想**の応援によるスポーツエンターテインメントの推進

新幹線開業後のさらなる交流人口拡大のため、経済界、県、福井市で整備に向けた検討を進めています。Bリーグやコンサートなどの開催により、県内外の多世代が集い交流する場を創出します。



整備イメージ(基本計画案抜粋)

■ 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUIターンを推進

「スポジョブふくい」による有力選手のアスリートの就職支援を実施し、7人が令和7年春採用に内定しています。佐賀国スポでも大活躍しました。また、令和8年の春就職に向けたインターンシップ等の活動支援も開始しました。



第78回国民スポーツ大会 SAGA2024

■ 「e スポーツ」を活用した交流イベントを開催

「福井しあわせプラススポーツデー」などのスポーツイベント内で、e スポーツの体験交流会を開催しました。e スポーツを通じて、障がいの有無や年齢、性別を超えて、県民誰もが楽しめるコミュニティの形成を図っていきます。



eスポーツ体験交流会の様子

■ 「ふくい桜マラソン 2025」に向けた機運を醸成

「ふくい桜マラソン 2025」のランナー募集(8/8～11/8)を開始するとともに、「ランニングフェスタ in SUMMER」の開催や、県内外のマラソン大会・イベント等に出向して大会のPRを行いました。



ランニングフェスタの様子

○まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

■ 誰もが発表できる「まちなかステージ」の設置を支援

誰でも自由に文化芸術活動の発表ができる場所をつくり、まちなかの賑わいを創出するため、新たに2市町(坂井市、おおい町)に「まちなかステージ」を設置しました。



おおい町のまちなかステージ

■ 文化芸術を通して地域活性化を図るアートプロジェクトを応援

地域の魅力向上などにつながる文化芸術活動に取り組む33団体を助成金により支援しています。また、活動実践者への支援体制を強化するため、新たに「アーティスト・コーディネーター」として地域おこし協力隊を委嘱しました。



地域おこし協力隊委嘱式

■ 県内デザイナーと連携し、一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客策を展開

県内デザイナーが監修した「一乗谷百景 写真展」を福井駅東口(一乗谷口)にて開催し、一乗谷朝倉氏遺跡や一乗谷朝倉氏遺跡博物館の魅力を発信しました。



福井駅での一乗谷百景 写真展

■ 世界最高峰の楽団によるコンサートや子供向けプログラムを開催

11月の公演開催に向けて県内外へのPRと機運醸成を図るため、5月に東京福井県人会において福井ゆかりのアーティストによるミニコンサートを開催。また、10月に開催する西武福井店でのウィーン伝統菓子フェアのPRを実施しました。



東京県人会でのミニコンサート

伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

■ 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムを造成

海外富裕層を主なターゲットとし、深く刺さる体験プログラムの造成を行うため、伝統工芸産地のリサーチと首都圏のホテルコンシェルジュや旅行会社に対する送客の働きかけを行っています。



外国人を対象とした越前焼の制作体験

■ 県内外のデザイナー等と連携し伝統工芸ブランド「F-TRAD」による商品を開発

タッグを組むデザイナーと伝統工芸事業者が集結し、全体共有会や産地ツアーで交流を深めながら、6件の商品開発を進めています。また、東京でPOPUP販売する等「F-TRAD」商品のPRと販路開拓にも努めています。



F-TRAD 全体共有会

(2) 次世代チャレンジ宣言 ~チャレンジで未来をつくろう~

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

■ 知事のトップセールスによる企業の誘致を促進

工場のデジタル化、自動化により生産性を大幅に改善する生産拠点の新設や、高度人材やUIターン者の受け皿として期待できる研究開発機能の拡張に伴う増設が決定しました。



生産効率向上を図る工場の完成イメージ

■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

投資余力があり本県と地縁がある企業をリストアップし、オフィス系企業の誘致活動を強化しており、都市圏のITなどのオフィス系企業の進出が決定しました。



オフィス企業イメージ

「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで有望ベンチャーを育成

令和6年10月30日に「福井ベンチャーサミット」(第11回福井ベンチャーピッチ)を開催します。今回は、ベンチャー支援のキーマンが一堂に会し、6社の県内ベンチャーが登壇します。



■ 独創的なアイデアを持つ学生・若者スタートアップを創出

30代以下の若者を対象に、起業マインドの醸成、ビジネスアイデアのブラッシュアップを図るため、セミナーおよび個別指導を計7回実施しました。



起業マインド醸成キックオフイベント

■ 事業承継に向けた企業価値向上と県外人材等による第三者承継を支援

県外人材等による第三者承継を進めるため、県内中小企業30社の企業価値向上につながる取組みを支援。優れた技術を持つ企業や地域の豊かな暮らしを支える県内企業の維持発展を図っています。



■ 働きやすい職場づくりに取り組む「社員ファースト企業」を拡大

働きやすい職場環境づくりに向けた宣言を行う「社員ファースト」宣言企業は675社に拡大しました。また、働く人を大切にする「ウェルビーイング経営」について、具体的な実践方法を学ぶ3回シリーズの経営塾を開催し、約40人の経営者等がその理論と手法を習得しました。



ウェルビーイング塾(実践講座)

成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

■ 産業技術総合研究所の北陸デジタルものづくりセンターと連携し、デジタルものづくり分野における共同研究を実施

高品質な機械部品を供給するために、3Dプリンタ製品の研磨技術の開発に取り組むとともに、高機能な衣類製品を実現するために、スマートテキスタイルの開発に取り組んでいます。



産業技術総合研究所
北陸デジタルものづくりセンター

■ SDGs関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発を

支援し、企業の価値づくりを促進

企業の価値づくりを目的として、県内企業が大学や産総研等の研究機関・金融機関等と連携して実施する、ヘルスケアや脱炭素に資する9件の可能性調査や技術開発を支援しています。



技術開発に向けた意見交換の風景

■ 嶺南Eコースト計画に基づくスマートエネルギーエリアを形成

嶺南市町が進めるスマートタウンのモデル地区整備に対して、嶺南スマートエリア推進補助金を活用し、支援しています。

また、公共施設をVPPリソースとした電力容量市場への参入など、エネルギーを活用した地域活性化の取組みを進めています。



スマートタウンイメージ

■ 「立地地域の将来像に関する共創会議」で示された将来像の実現に向け、

国や立地市町、電力事業者とともに取組を推進

7月に開催された共創会議において、地域の課題や要望を踏まえ、避難道路の整備、地域医療や地域交通の充実、スマートタウン整備の深化・加速などが、新たな取組みとして位置付けられました。また、関係人口の増加や水素・アンモニアサプライチェーンの構築に向け、タスクフォースにおいて議論が実施されました。



立地地域の将来像に関する共創会議

■ ICTを活用したスマート農業を推進

スマート農業の導入の加速化を図るため、GPS固定基地局の活用やロボット田植機、自動給水栓、ドローン等のスマート農機の導入を支援しています。



ドローンによる防除作業風景

■ 大規模水田園芸、大規模施設園芸の推進により園芸産出額を拡大

今年度は、タマネギやネギ等の機械導入を支援し、水田を活用した園芸品目作付面積を拡大しています。

また、トマトの大規模施設導入を支援しています。



トマト大規模施設での収穫作業

■ 「ふくい型林業経営モデル」による主伐・再造林を推進

木材生産による収益の向上を図るため、ふくい型林業経営モデル実施エリアを設定し、主伐地の集約化に必要な資源調査や作業道の拡幅等を支援しています。



高性能林業機械を使った主伐

■ 県外・海外(台湾・インドネシア)における県産材製品の販路拡大

県外向けには、東京都で開催される大規模展示会への出展、海外向けには、台湾やインドネシアの現地法人と連携し、展示会や商談会へ出展しています。



台湾における展示会の様子

■ 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を本格化、養殖生産規模の拡大を支援

昨年、県、大学、民間企業等と協定を締結し、今年4月から「小鯛のさき漬け」に使用されるキダイ(レンコダイ)の完全養殖に向けた種苗生産技術開発の試験を開始しています。



水産学術産業拠点での養殖研究

■ 農遊コンシェルジュを育成し、農村回遊を進め、農山漁村の交流人口を拡大

各地区において農遊コンシェルジュのスキルアップ研修を開催しており、今後は、大学生等と連携しながら、農遊イベントの企画や農遊ツアーのモデルコースづくり等を進めていきます。



勝山での農遊イベントの様子

■ 自伐型林業の取組を拡大し、山村地域の活性化を促進

自伐型林業大学校開校等の効果により、自伐型林業に取組む団体が11団体に増加しました。また、これまで福井市が中心であった自伐型林業等への支援については、勝山市や南越前町など他の市町でも開始されるなど、拡がりを見せています。



令和6年度開講式の様子

○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ DXラボと支援機関が連携し、企業のDX推進を伴走支援

ふくいDXオープンラボでは、相談対応や専門家派遣を実施し、企業のDXへの取組みを後押ししました。県内金融機関・支援機関とともに企業のDXを支援するため「ふくいデジタル推進アライアンス」を発足させました。



ふくいデジタルアライアンスの協定調印式

■ 学生、転職者等を対象にDXスクールを開講し、企業のIT人材を育成・確保

県内企業の社員等を対象に「ふくいDXスクール」を開講しました。今後、45時間程度の講座受講を通し、実務で使えるスキルの定着を目指します。



■ IoT・AI等の先端技術の導入による企業の業務効率化、高付加価値化を支援

DXの実践に向けた計画の策定支援や、デジタル技術を有効活用するための社内体制整備を支援するとともに、ふくいDX加速化補助金を活用して県内企業19社がAI・IoT等のデジタル技術の導入を進めています。



専門家による相談風景

■ 県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用により県内企業の成長を支援

経営者とDX推進者が自社のDXを自力で考え行動するスキルを取得することを目的に、ふくいDX経営塾を8月に開講しました。22名が3カ月程度のカリキュラムを受講し、会社のDX推進計画や人材育成・確保策などに理解を深めます。



産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「恐竜学部(仮称)」を新設

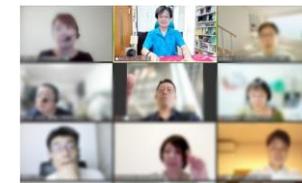
令和6年8月に文部科学省から認可を受け、全国初となる「恐竜学部」の設置が正式に決定。令和7年4月の学部開設に向け、「入学者選抜者要項」の発表、学部棟の建設など、準備を進めています。



恐竜学部棟イメージ

■ 大学と産業界等との連携により社会人のリスキリング教育を展開

「ふくいNEW経済ビジョン」策定委員と連携し、ビジネスパーソンに必須の「汎用スキル」の習得を目指すオンライン講座を開催。全9講座を開講し、509名が受講しました。



ビジネス汎用スキル研修の様子

■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「ふくい創生人材」を輩出

県農産物の高付加価値化や空き家情報紹介HPの改良など、県内大学の学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決に取り組むPBL(プロジェクト型学習)を合計81件実施しました。



PBL学習の様子

■ 園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成

各カレッジでは、来年度以降の農林水産業への就労に向けて、現在69人（農55、林4、水10）の研修生が作業技術や経営ノウハウを学んでいます。



定置網漁の実践研修の様子

日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくります。

■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

6月に女性を対象にしたふく恋利用登録料無料キャンペーンと、ふくい結婚応援企業の従業員を対象にした法人割引を開始し、出会いの機会を拡大しています。開始から3か月間でお見合いが前年同期比4割増の349件実施されました。



■ 男性の育休取得を当たり前。誰もが育休を取りやすい職場環境整備を推進

男性育休の取得を促進する企業向け奨励金の制度内容を見直し、9月までに113件の申請がありました。令和5年度の県全体の男性育休取得率は過去最高の31.4%となっています。



男性育休促進キャンペーン

■ 「ふく育」応援団が子育て家庭と妊婦を応援。社会全体で子育てを応援する機運を醸成

妊婦や子育て世帯に優待サービスを提供する「ふく育」応援団店舗を維持し、約6.3万人が、優待サービスを利用できるパスポートに登録しています。



ふく育パスポート

■ 複数の子どもを育てる”複育“を応援。保育料や高校授業料無償化の対象を拡充

扶養2人以上世帯の高校授業料無償化について4月から所得制限を撤廃したほか、今年9月からは第2子の保育料無償化の所得制限を撤廃し、複数の子どもを育てる世帯への支援を強化しました。



子どもの成長を支える保育者（イメージ）

■ 核家族でも安心。「ふく育タクシー」、ふくい家事育児サポーター「ふく育さん」の普及を促進

9月までにふく育さん88名、ふく育タクシー24事業者を確保するとともに、一元的に利用申込みを受け付けるオンライン窓口を設置し、県内全域でサービスを提供できる体制を整備しました。



ふく育さん、ふく育タクシー利用シーン

■ 地域における全天候型の遊び場の整備を支援

5月に小浜市で新たな全天候型の遊び場「なないろ」が開所したほか、県内9市町で設計・施工準備が進んでおり、そのうち2市では、今年度中の開所を予定しています。



小浜市「なないろ」（R6.5 開所）

■ 子どもが欲しい世帯に日本一の不妊治療助成を実施

体外受精などの不妊治療の自己負担額が、基本的に6万円を超えないよう助成しています。医療保険適用となる治療のほか、先進医療や保険回数適用終了後の治療も対象にしています。



■ **フォスタリング機関**による里親の確保、マッチング支援、質の高い里親養育を実現

制度に関する一般の方からの相談や研修、普及啓発、子どもと里親のマッチング、里親になってからのサポートまで、里親や子どもをトータルにサポートしています。



フォスタリング機関「福さと」ロゴ

■ **「ふく育県」を全国に PR**。子育て世代の移住を促進

県外の若者や子育て世帯を対象に、本県の充実した子育て環境や子育て施策等を PR し、「ふく育県」のイメージ定着や移住定住につながるキャンペーンを展開しています。



(3) しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになるう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会をつくります。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

■ 地域のリーダーとなる若者を育成する**教育プログラムコース**を実施

若者らしい新しい発想で地域活動に取り組む人材を育成する仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」の入校式を9月22日に行い、37名が入校しました。県内外で活躍する個性豊かな16名の講師による講義や、フィールドワークなどを実施します。



エキセントリック・カレッジふくい

■ ふるさと納税活用の**クラウドファンディング**により県民活動を応援

ふるさと納税を活用し、10事業のクラウドファンディングを支援しました。全ての事業が目標金額を達成し、笏谷石と越前和紙を活用した笏谷和紙の開発や、小学校の校庭を全面芝生化するプロジェクトなどが実現しました。



ふるさと納税×クラウドファンディング
実行者募集ページ

■ **福井県ブランド戦略**に基づき、「『千年文化』を未来へ」を軸に参加型プロジェクトを実施

食や産業、伝統工芸などの福井の良さを継承してきたパネリストを迎え、県民自身が千年先に残したいモノ・コト等を発表する「ふくい千年文化プロジェクト」のスタートアップイベントを開催しました。また、ふくいを「フカボリ」し、最高のふくいを再発見するフォトウォークを開催しました。



ふくい千年文化プロジェクト
スタートアップイベント

○課題解決へ県民アクション

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を拡げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

■ 「ふくいSDGsパートナー」の登録拡大、連携・協働により次世代を育成

パートナー登録数は1100機関を突破しました。また、パートナーの取組みを周知し、県民自身の活動につなげるため、「ふくいSDGsフェス」(5月、6月)や普及啓発月間「ジュナナチャレンジ」(9～10月)を実施しました。



ふくいSDGsフェス

■ 県民目線で質の高い政策立案を目指す「**政策デザイン**」を推進

県内デザイナー・クリエイター等とともにアイデアを出し合う「政策デザインワークショップ」を開催し、全庁的に質の高い政策立案を目指すとともに、デザインの視点や発想の有用性を県内外に発信しています。



政策デザインワークショップ

■ 県と**市町協働**による課題解決策の検討やシステム標準化・共同化を推進

効率的で利便性の高い行政サービスを目指し、窓口業務の改善を検討する「窓口DX勉強会」を市町と共同で開催しました。(15市町39名参加)

また、令和7年度末のシステム標準化に向けて、文字同定やガバメントクラウド利用などの課題と対応を共有し、市町の取組みを支援しました。



市町向け窓口DX勉強会

■ **デジタル地域通貨「はぴコイン」**を活用し、生活DXを推進

定住・移住事業、省エネ促進事業など、県・市町合わせて30事業で「はぴコイン」が活用され、県民の行動変容、域内経済の活性化を促進しました。また、7月には、常時チャージの運用が始まり、地域通貨として利便性が向上し、日常使いが広がり、県民生活のDXを促進しました。



■ 地域の課題を先進技術で解決する**官民協働プロジェクト**を推進

県内の地域課題を、民間事業者の先進的・革新的な技術で解決する実証事業を6件採択しました。採択された実証事業は、8月以降順次開始し、社会実装に向け取り組んでいます。



坂井市と連携した実証事業

■ 外国人が**住み・働きやすい環境**を整備し、活躍を促進

7月27日、富山県、石川県と3県合同にて、災害時の外国人支援に向けた研修会を開催し、防災に関わる行政、国際交流協会等のスタッフ、ボランティア他41名が参加しました。



災害時外国人支援研修会

■ 「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」に基づく男女共生社会の実現に向けた取り組みを促進

働きやすい職場環境づくりや女性の登用等を促進する「ふくい女性活躍推進企業」は659社（昨年度末から1.5倍の227社増）になりました。また、7月に開催された北陸初の三県合同による「かがやきHokuriku女性活躍サミット」には330名が参加し、国と合同でサミット共同宣言を採択しました。



女性活躍サミット共同宣言

○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど**学生の長期滞在型キャンプ**の実施を支援

県内3地区（鯖江市、坂井市、小浜市）において、8～9月に学生の夏季キャンプを実施しました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。



学生キャンプ活動発表会

■ 都市部の専門人材を呼び込む「**地方兼業**」の取り組みを拡大

新たに2名のDX推進アドバイザーを委嘱（計7名）し、新幹線開業効果の分析、紙ベースの統計業務の見直しなどについて助言を受けるなど、県市町の伴走支援を実施しました。



DXアドバイザーによるDXセミナー

■ 地域との交流や体験活動を促進する「**ワーケーション**」の受入を推進

福井市が行う「ふく育県留学」の取り組みを支援し、10月までに3組の都市部在住の親子がそれぞれ県内に2週間滞在しました。今後、坂井市が行う同様の取り組みに対しても支援していきます。



地域住民と交流する参加者

都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ 子育て世代への「**移住支援金**」を加算

6月から、銀座のアンテナショップで定例移住相談会を開始し、新たな移住関心層の開拓を行っています。



アンテナショップでの相談会

■ 福井の生活環境をPRする動画配信等を行い、**福井への移住ブーム**を創出

1月から順次配信を開始したwebドラマ全5話について、都市部を中心にPRした結果、累計視聴回数が200万回を超えました。

また、7月～9月、10月～12月の年2回Instagram投稿キャンペーンを開催し、福井の生活環境の魅力をSNSで発見できるよう取り組んでいます。



■ **若者や子育て世代**やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

4月に横浜で開催された子育て世帯向けのイベントに新たに出展し、「ふく育県」に代表される本県の生活環境をPRしました。



子育てイベントでのブース出展

■ **移住サポーター**による情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

8月から移住サポート報酬制度を新たに開始し、移住サポート活動による移住マッチングを促進する仕組みを整備しました。



移住サポーターによる相談対応